

2026 年 2 月 5 日

お客様各位

日本クレア株式会社



富士生育場 No.8.2F.B 室における BALB/cAJcl-nu/nu
Staphylococcus aureus 検出についてのご報告 [第三報]

毎々格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。標記の件につきましては、ご心配とご迷惑をおかけしておりますこと、深くお詫び申し上げます。

第二報以降、報告に時間を要しましたが、これまで関連情報の整理および原因に関する確認を継続して進めてまいりました。

このたび、現時点での状況および今後の対応方針が取りまとめられましたので、ご報告申し上げます。

■ 検査結果概要

飼育室内の全ケージを対象に検査を実施した結果、生産動物および育成動物の一部ケージより *Staphylococcus aureus* 陽性が確認されました。

(ケージ単位)						
検査実施日	判定日	検査内容		陽性数	検体数	備考
12月17日(水)	12月20日(土)	糞便検査	12/15週出荷個体	2	50	【緊急】報告にてご報告 第2報にてご報告
12月19日(金)	12月21日(日)	糞便検査	12/15週出荷余剰個体	7	20	
12月21日(日)	12月23日(火)	糞便検査	出荷余剰個体	17	81	
12月23日(火)	12月25日(木)	糞便検査	生産コロニーのスクリーニング検査 生産コロニーのスクリーニング対象とした個体より※1個体として実施	1※1	56	
12月24日(水)	12月26日(金)	糞便検査	※1の陽性ケージのケージ毎検査	1	7	
12月24日(水)	12月26日(金)	糞便検査	種親全数のスクリーニング検査	0	44	

第二報にて記載しました検査及び以降に実施しました検査結果から、生産コロニー内の特定1ケージが起点となった可能性が極めて高いと考えております。種動物については、確認した検査範囲において陰性を確認しております。

なお、陽性が確認された個体につきましては、12月26日付で安楽死処置を実施いたしました。

■ 感染拡大に関する考察

検査結果および飼育管理状況を踏まえますと、生産動物の1ケージを起点とし、主に離乳作業、日常の飼育管理における動線の重なりを介して育成動物へ広がった可能性が考えられます。

また、弊社定期検査結果および本菌の伝播特性等を総合的に踏まえますと、感染の拡大は限定的な範囲で推移していた可能性があるものと認識しております。

■ 調査委員会の設置および感染要因に関する調査（途中経過）

2025 年 12 月、*Staphylococcus aureus* 陽性が確認された富士生育場では、年末・年始にかけて、当社マウス・ラット生産本部メンバーによる社内調査を実施いたしました。2026 年 1 月、第三者を交えた社内調査委員会を設置し、同月 23 日に現地調査を実施、現地施設および設備の確認、飼育管理手順、作業記録、担当者へのヒアリングを含む多角的な調査を実施いたしました。その結果、規定された飼育管理手順からの明確な逸脱や、特定の単一要因を原因と断定できる事象は確認されませんでした。が、本事象との関連が否定できない要素を確認いたしました。

【調査により関連の可能性が認められた点】

- ・着衣の附属物品や退出ルート of 清拭・消毒に使用する次亜塩素酸ナトリウムにおいて濃度低下が確認され、消毒効果が十分でなかったことにより菌の増殖が生じた可能性がございました。
- ・施設運用面において、生産施設内の設備チェック時に陽圧状態であったものの、バリア内外が一時的に通じる状況下での作業が確認されました。飼育担当者ならびに施設設備担当者の感染症管理に関する注意意識に一部改善の余地が認められました。
- ・2025 年 9 月着衣室の壁・天井部コーキング部位において、施設の経年使用に伴う雨漏り事象が確認されておりました。なお、当該箇所については速やかに修繕対応を実施しております。（着衣室はバリア飼育室の入退室ルート上にあるエリアで、入退室ルートは共通となっております。）
- ・モニター動物の設置および飼育管理手法において、運用上の注視ポイントが確認されました。特にモニター動物の配置および飼育時のフィルターキャップ使用が、結果として検出感度低下を助長した可能性がございました。

■再発防止に向けた対応方針

- ・消毒薬の使用期限管理および在庫管理方法を明確化し、消毒効果の維持管理の徹底を図ってまいります。
- ・免疫不全動物を取り扱う際の意識向上と感染防御に関する知識強化のため、作業手順の策定意図理解や手袋交換・手指消毒の徹底を含め、担当者への再教育訓練を実施し、衛生管理手順の再徹底を図ってまいります。
- ・施設設備の点検および修繕管理体制を強化し、バリア内外が通じることのない運用体制の整備を進めてまいります。
- ・モニター動物の設置および飼育管理手法について見直しを行い、検出感度の確保に向けた運用改善を進めてまいります。

- ・出荷対象動物についての検査体制強化として、4 週齢時に出荷対象匹数全体をカバーする割合で *Staphylococcus aureus* 糞便検査を実施し、陰性確認後に出荷を行います。これにより、出荷前段階でのリスクを監視する体制といたします。

※原則として 5 週齢以降の出荷となりますが、3～4 週齢での出荷をご希望の場合は営業までご相談ください。

以上、現時点での状況および今後の対応方針についてご報告申し上げます。現在、調査委員会による最終報告の取りまとめを進めており、本対応方針についても内容の精査を行ったうえで、確定事項を踏まえた報告として整理し、コロニー再構築のスケジュールと併せて改めてご報告申し上げます予定です。本件により多大なるご心配とご不便をおかけしておりますこと、改めて深くお詫び申し上げます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

問合せ先：

東京 AD 部：03-5704-7050

大阪 AD 部：06-4861-7101

以上